

教育委員会だより

令和5年8月24日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像>
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

中学生リーダー集う！～連合生徒会交流会～

7月31日（月）に『第34回連合生徒会交流会』を開催しました。この数年はコロナ禍により一堂に会して行うことが叶いませんでしたが、今年は全中学校から34名の生徒会役員が集いました。テーマは「よりよい中学校生活を目指すために」。多治見市中学校宣言「一人一人が自分らしく生活できる居心地のよい集団を目指します」に絡めて自校の取組みを発表したり、グループに分かれて話し合ったりしました。驚かされたのは、生徒諸君の“発信力”と“コミュニケーション力”の高さです。iPadを駆使して自校の取組みを効果的に伝える姿、他校の仲間ともすぐに打ち解けて意見を交わす姿。実に頼もしいというか、次の時代を担うリーダーが着実に育っていることを強く感じました。次回は1月開催の予定です。今回話し合った後期の取組みの成果を持ち寄って交流します。



10年後の子供の姿を描く～市長・市P連懇談会～

8月5日（土）に市PTA連合会と市長の懇談会を開催しました。今年度は、「目の前の子供たちが10年後の社会を幸せに生きるために」をテーマとし、キーワード「いのちの大切さ」及び「自立する力」でグループを分け、セッション形式で行いました。冒頭、高木市長からは「多様な特性や価値観がある現状に対し、同じ親の立場で共に考えたい。」、加藤会長からは「どうすれば子供が輝けるか、健やかに育ってくれるかについて気付きの場にしたい。」との挨拶がありました。参加の市P連事務局及び単P代表者による、それぞれのキーワードについて熱心な発言や意見交換がありました。短い時間ではありましたが、PTA関係者・市長・教育委員会職員が語り合えたことで、子供に対する見方・考え方や関わり方が広がり、新たな一歩が刻まれたように感じました。また、膝を突き合わせて語り合うことの一体感が、信頼関係につながった貴重な時間となりました。

子供も教師も学ぶ夏休み ～各種講座・研修会等～

7月号で教育支援員による「算数学習会」を紹介しました。この他にも「得意セミナー（理科や図工など現職・退職教員が得意分野で講座を担当、計142名の児童生徒が参加）」、「教師塾セミナー（運動遊びやICT活用等の今日的課題で全6講座を開設、計142名の教員が参加）」、外国籍等児童生徒支援員による「学習会」、(株)カゴメを招いての「親子食育講座（オムライス作り）」、土曜学習講座「チャレンジスポーツ」、教職員のための「著作権研修」等々、教育委員会各課や市役所関係課の主催で様々な活動を行いました（全ては書き切れません）。

子供にとっての夏休みは、普段なかなかできないことに挑戦するチャンスです。また、教員にとっても自身の特技・特能を生かして市内の児童生徒に直接指導したり、自身のスキルアップのために主体的に学んだりするチャンスでもあります。

学校はお休みでも、子供も教師も学び続けた夏休み。終了後には、それぞれに満足感・達成感を味わって会場を後にしたことでしょう。この経験が、間もなく始まる夏休み後の学校を勢いづけてくれるに違いありません。



副教育長のひとりごと「夢や好きを仕事にする」

全国学力・学習状況調査（質問紙調査）「将来の夢や目標を持っている」の問いに対する回答には、全国的に課題があると言われてきました。勿論、子供の頃に描いた夢や目標が実現できるとは限りませんが、まずは夢や目標を持っていること自体が大切であって、それが途中で変わっていくことも当然あり得ることです。

8月19日（土）の土曜学習講座に、多治見市を拠点にバスケットボールのプロリーグ参入を目指して活動している『Gifu Seiryu Heroes（岐阜清流ヒーローズ）』を招きました。偶然にも、愚息の同級生と一緒にバスケットをしていた仲間が、アシスタントコーチとして参加してくれました。彼は本当にバスケットが大好きで、これまで様々な形で携わり続け、ついにコーチという立場で“好き”を仕事にしています。子供の頃の夢や好きを貫き、そこに自分の居場所を見出した若者の姿は、本当に輝いていました。彼を見ていると、さらなる活躍を期待せずにはいられませんでした。

